

農業を支えるアフリカの風

災害に強い米

神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センターで、稲の育種に取り組んでいるチュニジア出身のリム・フェキさん。交換留学生として2004年に来日。日本の文化に興味を持ち、地域のお祭りにも参加してきました。現在、「播州加西あばれ太鼓愛好会」の会員でもあります。これまでに取り組んできた研究のことや日本の魅力を語ってくれました。

鶏野町にある神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター。リムさんは、ここで日本の主食であるお米の育種と遺伝子組み換えについて研究をしています。

「ちょっと行きましょか」。研究センターの建物を出て歩くこと5分、案内された田んぼは黄金色に染まり、稲刈りシーズンを迎えています。ここでは約3500種類もの稲が植えられており、全てバーコードで管理しながら生育を観察。聞くと、「草丈が長い品種と短い品種を組み合わせたら、台風がきても倒れない品種を作ることができるんです」と教えてくれました。

憧れの日本へ

農家で生まれ育ったこともあり、農業系の大学へ進学し、その後大学院へ。ここではイチゴの研究をしていました。そんな時、日本に行くチャンスが訪れます。筑波大学との新しい交換プログラムが始まることを知り早速に応募。たった一人の枠を見事掴み取り、2004年に交換留学生として来日することができました。「小さいころからの夢でしたから、うれしかったですね」と回顧。

アニメに魅かれ

チュニジア共和国。日本から約1万キロ離れた北アフリカに位置する地中海に面した国です。大きさは北海道の2倍ほど。地中海沿岸の気候を活かしたオリーブの生産が盛んです。リムさんはオリーブを生産する農家で生まれ育ちました。パンや小麦、クスクスが主食で、お米はおかゆにして食べるそうです。チュニジアでも日本のアニメが放映されて



倒伏を防ぐ稲の開発。田植えの後、研究チームのメンバーと。(前列中央がリムさん)

3年かけて無事に博士号を取得したリムさんは、そこから日本で博士研究員として様々なプロジェクトに取り組みます。2010年4月、岩手県北上市の岩手生物工学研究センターへ。日本での初めての職場です。稲は8〜9月の実りの時期を迎えると、台風やゲリラ豪雨により倒れてしまい、収穫量および米の品質の低下が問題となっていました。「米の生産を安定化するために、稲を病気に負けないよう強くする研究や、台風でも倒れにくい品種をつくる研究をしました」と新品種の開発内容を教えてくれました。

「植物は動くことができない。人間は動くことができる」。キャリアを積むために研究プログラムは自分で探します。4年での一つの研究プログラムは終了します。北上市でのプロジェクトを終えたリムさんは、同じ岩手県の盛岡市へ移り、次はリンドウの研究に携わりました。そしてまた4年が経ち、新たなプロジェクトを探し、辿りついたのがここ加西市でした。

神戸大学では、コシヒカリの研究に取り組み、北上市の時と同じように、稲を強くするための研究をしています。加えて、最近問題となっている地球温暖化に対応できるように他の大学と連携したプロジェクトにも取り組んでいます。

日本文化に感化

遺伝子の組み換え技術を利用することにより、地球温暖化や戦争などの影響で穀物が手に入りにくい状況でも、日本で安定して食物が収穫できるといい、日々研究に励んでいます。

「踊ることが好きで、地域のお祭りにはよく行くんです」。論文の執筆中は座って

いる日々が続くので、休みの日には体を動かすことでリフレッシュしています。これまでも、北上市の「みちのくまつり」盛岡市の「さんさ踊り」そして加西市の「加西サイサイまつり」に研究チームの人と一緒に参加したそうです。「チュニジアのダンスはステップは自由だけど、日本の踊りはルールがあって、地域によってステップが違うから面白い」と笑います。



播州加西あばれ太鼓の一員として。グリーンパークトライアスロン in 加西で選手を太鼓で激励する

たまたま訪れた公民館で「播州加西あばれ太鼓」の演奏を目にしました。ここでも面白い！と思い、すぐに稽古見学に行き、入会を決めました。もちろん太鼓を叩くのは初めてで「最初は音を出すのに苦慮したが、今ではすごく楽しい」と目を輝かせました。子どもも和太鼓を始めたという、「ひまわりっ子クラブ」に所属し和太鼓に打ち込んでいます。12月に行われる播州加西あばれ太鼓愛好会の30周年記念演奏会では親子での共演が観れそうです。

夢のために邁進

日本に来て今年で18年。異文化の中でも色んなことに興味を持ってチャレンジを続けて

きたリムさん。掲げる目標は、「大学教授になること」だそうです。採用されるには、研究能力や論文数などの実績が必要です。そのキャリアを積むために研究プロジェクトに参加し、様々な場所を渡り歩いています。そして、クリアしなければならぬ壁は研究実績ともうひとつ、「日本語」だそうです。学生たちに伝えるためには言葉は絶対だそうで、いくら実績を積み上げても採用は難しいという。「分からない単語は子どもに教えてもらっているんです。日本語をもっと頑張らないとね」とはにかみます。

「実は、神戸大学でのプロジェクトは来年で終了するんです」。次はどの地へ向かうのか。目標達成に向けて邁進し、必ず夢を掴み取ってみせます。

キラリびと vol.19

リム・フェキ Rym Fekih

昭和51年生まれ。チュニジア出身。筑波大学との交換留学生として2004年に来日。その後博士号を取得。博士研究員として稲やリンドウなどの育種の研究に取り組む。趣味は地域の特徴あるお祭りを巡って楽しむこと。播州加西あばれ太鼓の会員としても活躍。

すっぴん かさい 11月

広報

表紙	01
キラリびと リム・フェキ	02
響け 地域への鼓動	04
特集	
市政情報	06
TOPICS	
加西市人権条例制定	07
住吉神社 国重要文化財指定	
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	19
わくわく子育て情報	25
そうだ！図書館へ行こう	26
かさい消防ニュース	
おくやみ／各種相談	27
とびだせ！かさいっ子	28
がんばれ！松本隊員	
みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク

R4.9.30 現在 (前月比)

人口 / 42,396 人 (-71)

男 / 20,790 人 (-29) 女 / 21,606 人 (-42)

世帯数 / 18,343 (-14)

9月の出生数 / 17 人 死亡数 / 59 人

● 11/9 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)